

# 牧羊ひろば



枚方希望教会

あなたの若い日に、あなたの造り主  
を覚えよ。  
伝道12・1

## ●これまで振り返って

枚方希望教会は創立して42年になります。どの教会でもそうだと思いますが、当教会でも一九七五年一

九八〇年頃には教会学校の生徒数が100名前後にまで増え、それも近隣の小学生たちが競うように出席して活気に溢っていましたので、さながら小さな分教場のような感じがありました。

しかしその後は下降線をたどり、出席者も一時は10名前後にまで落ち込みました。それでも祈りながら働きを続けてきました。

今から6年くらい前だったでしょうか、神様はかつて生徒だったクリスチャン2世を、その子どもたちと共に教会に送り返して下さいました。同時に、若い教師たちも備えて下さったので、それ以来、教会学校が息を吹き返したように感じて

います。

## ●教会学校の祝福

学校には学校の、塾には塾の友だちがいるでしょう。しかし、それらとはまた違う、親ぐるみの、イエス・キリストを基とするもつと深いつながりを、子どもたちは、教会学校の中で感じています。どの生徒をとつてみても、週に一度のこの時間を、心から楽しみにしているようです。

ここでは同年代という横割りの関係だけでなく、教会学校でのお兄さんお姉さん（弟や妹）という縦の関係、また教会に集う大人たちとの、ちょっとしたやり取りという斜めの関係も豊かです。

そこには本来の意味での「社会（コミュニティ）」それも同じ主を仰ぐ、キリストによって自由にされた人々のうるわしい交流があります。幼少期に通り過ぎる原体験の一つとして、このような、年齢や学校や立場を超えた、お互いを尊重し赦し合う共同体に属しているという意識を持つことが、彼らの靈的そして社会的成长にどれほど大きな益をもたらすものか。これは神様が与えて下さる多くの恵みの一つだと思えます。

## ●主日の子ども礼拝

現在、大人の礼拝に先立ち、子どもの礼拝は9時15分から小学科と幼稚科を合同で行います。プログラムは讃美、主の

祈り、子どもカテキズム（教理問答）メッセージ、献金、頌栄、祝祷と進みます。教理問答の問い合わせを読むこと、献金奉仕することを子どもたちに任せ、小さい頃から礼拝の形式に親しめるようにしています。

教師の説教をお互いに研鑽しようとの意図で、2年ほど前から、年に1～2回、誰かの説教を録画してそれを題材とし、教師会の中で研修するようになっています。自分の説教を教材にされる教師にとって勇気の要ることですが、よりよい説教をするという目的のためです。

### ●小学科の分級

約30分間の礼拝が終わると、分級を始めます。牧羊者のワークを用いて、小さい子どもは工作をするなど、年齢に応じて取り組んでいます。この分級の中で教師たちは、生徒一人ひとりの個性、集団の中での言動や振舞いの特徴を知ることができます。そのことから彼らの背後にある親子のありかた、兄弟との関りかた、家庭外の集団（学校など）での様子を想像し、聖書の理解度、靈的な成長を把握することができます。

分級の様々な場面で、担任する教師が生徒たちをどのように励まし、どのように注意し、どのように導くのか。この点においては教師の個性や考え方が顕著に現れます。

去る二〇一二年9月、大阪教区で開催したCS教師研修会

にお招きした水野晶子師から「教師の一致が教会学校を良いものにする大切な要素の一つ」と教わりました。生徒への接し方、導き方という重要な事柄についてじっくりと話し合うことも、今後の教師会の大きな課題だと思われています。

### ●中高科の分級

中高科では「礼拝は大人の礼拝に出席する」という考えのもと、9時15分から「聖書の学び会」という形式で、小学科とは別の場所で集会を持つっています。賛美は教区のバイブルキヤンプで使う歌から選び、祈つて始めます。牧羊者のカリキュラム箇所から、聖書を全員で1節ずつ輪読し、黙想。記事の背景などを教師が解説したあと、いくつかの課題を挙げて、各自がみことばから受け取めたことを自由に話し合うようになります。

生徒が、感じたこと考えたことをなかなか言葉に表せず、ほとんど教師だけが話しているという日もあれば、質問や意見、感想が、生徒たちから活発に出てきて、そこから、聖霊の助けによって、聖書の真理に導かれる日もあります。月に一度は小学科の礼拝に合流し、縦の交りも保つようになります。

このクラスの生徒たちも、神様が送つてくださった大切な魂だと覚え、彼らが救われるよう祈っています。

### ●子ども礼拝の時間について

子どもの礼拝を先に済ませるので、大人が礼拝している間は、それが終わるまで別の場所で待つていなければならぬという現実があります。教会の限られたスペースの中で、子どもが騒がずに過ごすのは難しく、また近所の公園に行つて遊ぶのは危険があるので付き添いが必要、などの問題に直面し、教会全体でこのことを話し合いました。

その結果、現在は教会学校の生徒のほとんどが教会員の子弟なので、信仰継承の基本は家族が共に礼拝をささげることではないだろうか、という意見で一致しました。

とはいっても、礼拝の雰囲気を重んじるためには、乳児や幼児を保育するという配慮が必要であり、小学校低学年のころまでは長時間席に座つて静かに話を聴く習慣が十分にはついていません。そこで、教会学校の礼拝は基本的に、これまで通り大人の礼拝と時間をずらして持ち、月に1度だけ「親と子の家族礼拝式」として大人の礼拝に合流するようにしました。

### ●暗唱聖句大会・お誕生日会と親子礼拝

毎月の第四主日は教会学校の礼拝をお休みにして、その時間は「暗唱聖句大会」と「お誕生日会」に充てます。その月に学んだみことばを暗唱し、言えたみことばと同じ数だけの「ごほうび（鉛筆やシールなど）」をもらいます。

誕生日を迎えるお友達（中高生も含流）には王冠をかぶつてもらつてお祝いします。そのあと手作りのデザートをいたたくのが子どもたちの楽しみです。

このあとに続く「親と子の家族礼拝式」には、会堂の左前の一角に子どもたちが集まって座り、親、教師、お友達と一緒に讃美歌や交説文、主の祈りや使徒信条をささげます。この礼拝では通常の説教の前に「子どものためのお話」というプログラムがあり、牧師が講壇から降りて子どもたちに近づき、牧羊者の聖書箇所から、みことばを解り易く語ってくれます。

大人たちも微笑みながらこの説教を一緒に聴いています。

### ●年間行事について

① 《進級式》4月。年度初めの礼拝式の中で、進級式をして、お祝い（讃美歌や聖書、読み物）を贈ります。

② 《イースター》朝、近くにある公園で野外礼拝をささげ、エッグハントをします。春の喜びに包まれます。

③ 《花の日》近くの交番、消防署にお花と感謝の手紙をもつて行き、賛美歌をうたいます。消防署で消防車に乗せてもらえると、子どもたちは大喜びです。

④ 《母の日・父の日》分級の時間を利用して、メッセージ



誕生会

カードを作り、親に贈ります。

#### ⑤『CSファミリーキャンプ』

通常の主日礼拝から始まる夏のキャンプは、子どもたちの一年で一番の楽しみです。午後、キャンプ場へ。ずっと長い間、京都教区の「湖西祈りの家」を使わせてもらいましたが、

二〇一二年は気分を変えて、枚方市郊外にある「穂谷野外活動センター」を使いました。到着後はアスレチックや虫採り、チューペットのおやつのあと、宿泊所に併設の体育館でボール遊び。シャワーと夕食の後は研修室で学びタイムです。教団から出ている3部構成の夏期教案を使い、最後の学びの後には教師と生徒が1対1になつてカウンセリングをします。

夜の花火は毎年のお楽しみです。甘いスイカをほおばつたあと宿舎へ。ベッドに入るために、お友達とおしゃべりしたり、はしゃいだりするのが忘れられない思い出になります。



ファミリーキャンプ

花の日

二日目の昼食は炎天下、バーベキューの網を囲んでワイルドに食べました。キャン

プは、参加者が日頃はできない交わりを深め、神様が子どもの靈性を成長させて下さる、大切な行事です。

#### ⑥『敬老の日の施設問安』

たいてい毎年、敬老の日に近い9月の日曜日の午後、近くにある老人ホームを訪ねます。40名くらいのお年寄りが、車椅子に乗つてホールに集まってくれます。子どもさんびかを合唱し、ゲームを楽しんで、最後に子どもたちがお年寄りと握手しながら、一人ひとりに花を手渡します。皆さん笑顔で、中には孫を思うのか目を潤ませながら、花を受け取つてくれる方もいます。

#### ⑦『CSクリスマス祝会』

昨年のクリスマスでは、一人ひとりが役を演じる降誕劇をしました。幼稚科の子どもたちが一所懸命にセリフを覚え、中高科は舞台道具の作成やりょうダの合奏。劇の中心になる小学生たちは賛美に演技にと、とてもたくさん頑張りました。

みんなで力を合わせて演じる劇を、お友達やお家の方、教



施設慰問

ファミリーキャンプ

会員の方々に喜んで観てもらえたのは嬉しいことでした。演じる生徒も観る人も「イエス様がこの世に来て下さったこと」の意味をしっかりと、そして自然に受けとめられたと思います。

### ●長尾チャペル子どもクラス

教会から車で約15分、市内の長尾谷町に3年前、建物が与えられました。このチャペルでは、地域への伝道として、牧師による月1回の聖書クラスや、婦人会による手芸・料理教室などを開いています。ここでの働きの一環として、毎月1回 土曜日の午前中に子どもクラスを開いています。

通常月の集会は賛美やメッセージを中心としたものですが、夏休み（かき氷）や、イースター、クリスマスには特別なプログラムを実施しています。

集会が近づくと、下校する子どもたちにビラを配ります。

たいてい喜んで受け取ってくれ、その中から、本校とはまた違う気質の子どもたちが、集会にやつてきます。

3年前の開校当初には、もの珍しさから近隣の子どもたち数十人が押しかけてきて、椅子が足りないほどでした。現在



クリスマス

は、常連になってきた10～15名の生徒たちが集う、少しずつ落ち着いた集会になっていました。

### ●今後の課題 1. C.S教師の確保

教師の奉仕がC.Sだけでなく、別の教会奉仕と競合することがあり、分級のスタッフが足りない時があります。

### 2. 生徒の魂や生活への関与

小学から中学に上がるとき、クラブ活動への参加などで日曜日の集会に来づらくなります。イエスさまの近くで生活する習慣を身につけられるように指導します。決心を勧めるタイミングも神様に教えてもらうことです。

### 3. 地域の子どもたちに

本校には平常、教会員の子どもたちしか来ていません。もし新しい子どもたちが来ても、受け入れられるよう備えること。長尾クラスはその訓練の場でもあります。



長尾子どもクラス

（柳瀬充代・川上 博）